

サムライロード

動画リンク:

サムライロード 旧中山道で江戸を歩く旅

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字にはふりがながあります。後半は少しだけ速くなり、漢字にふりがなはありません。学習にお役立てください。

今回は「サムライロード」を学びながら日本語を勉強しましょう。

旧中山道は今、外国人からサムライロードと呼ばれ、歩く観光地としてとても人気です。古い町並みが残る場所が多く、日本らしさが残っているからです。日本では、160年前に300年続いた江戸時代が終わりました。旧中山道は、江戸時代が始まった1600年ごろに整備されました。当時はもちろん「旧」がない中山道と呼ばれていました。中山道は人と馬車のための約500kmの道で、今は舗装され国道になっています。旧中山道は当時の首都の江戸(今の東京)と天皇の住居があった京都を結ぶ重要な道でしたが、江戸・京都間には中山道の他にも東海道がありました。海の近くを通る東海道と比べると、山間部を通る旧中山道は遠回りになり不便ですが、それが今、素朴な観光地という魅力になっています。旧中山道の魅力と、500kmという超細長い特殊な観光地の楽しみ方を紹介します。

■旧中山道の歴史

旧中山道は、きゅうなかせんどう、と読みます。元の道の名前は中山道なのですが、今は「古い」という意味の「旧」がついています。旧がつくのは、かつて中山道だった道が、今は国道になっているからです。「昔はここは中山道でした」という意味で旧がついています。「山道」の読み方が特殊で、普通は「さんどう」または「やまみち」と読みますが、旧中山道では「せんどう」と読みます。旧中山道は江戸と京都を結んでいます。江戸時代の人口1位は江戸、2位は大阪、3位は京都。旧中山道は1位と2位の街を結んでいました。当時の政府である江戸幕府は、江戸と京都を結ぶ道を、旧中山道と東海道の2本つくりました。ちなみに東海道には普通、旧をつけません。幕府が京都を重視したのは天皇が住んでいたからです。大阪も当時大都市でしたが、大阪に近い京都まで大きな道があれば十分でした。当時の京都の天皇の住まいは京都御所といい、今でも存在して見学できます。明治天皇が京都から東京に移り、天皇は今も東京にいます。江戸幕府は旧中山道と東海道以外に、日光街道、奥州街道、甲州街道という広い道をつくりました。

あわせて五街道といいます。

五街道は今、すべて重要道路に変わり、日本経済の基盤になっています。

江戸幕府の交通インフラ整備が今に活きているわけです。

江戸幕府が五街道をつくったのは参勤交代のためです。

多くの人と大量の物資が移動することになり整備された道が必要になりました。

参勤交代と旧中山道は深い関係にあるので、詳しくみていきましょう。

■サムライロードの由来は参勤交代

まずは「大名」について説明します。

大名とは、広い領地を持っているサムライのことです。

幕府は大名をその地域のリーダーとして配置して管理しました。

参勤交代は、地方政府を担っていた大名に、1年ごとに地元と江戸に住ませるルールです。

地元で1年住んだら翌年は江戸に住みます。

つまり大名は毎年、大規模な引っ越しをしなければならず、そのとき大量の家財道具を運ぶので大きな道が必要だったのです。

江戸幕府が大名に参勤交代を命じたのは大規模引っ越しにお金がかかるからです。

大名の財政を悪化させて力を弱めたかったのです。

政治の都合で旧中山道のような交通インフラがつくられるのは、昔も今も変わらないようですね。

江戸幕府や大名は、現代の警察や軍のような公的武装機関を持っていました。

その人達のことを武士やサムライといいます。

サムライは参勤交代のときに護衛として大名に付き添いました。

それで旧中山道はサムライロードと呼ばれるわけです。

ただし江戸時代は比較的平和だったため、サムライは実際はほとんど戦いません。

その代わり統治などの政治に関わっていました。

■なぜ江戸・京都間の街道が2本あるのか

江戸幕府は5つの大きな道（五街道）をつくりましたが、江戸・京都間だけ旧中山道と東海道の2本あるのはなぜでしょうか。

ちなみに旧中山道は内陸の山の道などを通るルートで、東海道は太平洋岸を通るルートです。

幕府が江戸・京都間の街道を2本つくったのは、この区間は人や荷物の往来が激しく、1本だと道が混雑してしまうからです。

江戸・京都間の道は、第2の都市である大阪の関係者も使うので、2本あってもよかったわけです。

江戸・京都間の道が2本あったもう一つの理由は、両方の道の沿道に地方の街が数多くあったからです。

人がいれば道ができます。

旧中山道は正確には530kmあり東海道より30kmも長く、山間部を通るので歩くのに不便でしたが、庶民は旧中山道をよく使いました。

旧中山道は不便な分、宿の宿泊費が割安でした。

さらに東海道は幕府の監視が厳しく、それで旧中山道を選ぶ庶民が多かったのです。

■宿場町

現代の観光客が旧中山道を訪れる目的の一つに宿場町があります。

宿はホテルのことで、当時の旧中山道にあるホテル街が宿場町です。

江戸時代には自動車も電車もないので、人が500kmもの旧中山道を移動するには宿泊が必要で、それで宿場町が形成されました。

人々が集まるとそこにビジネスが生まれ、経済が発達し街が進化します。
宿場町も同じように発展していきました。
宿場町は江戸と地方の間で移動させる重要物資の中継地でもありました。
宿場町は「宿(しゆく、じゆく)」と呼ばれることもあります。
宿場町の建物の一部は現在まで残っていて、魅力的な古い街並みをつくっています。
これが今、観光資源になっているのです。
最も有名な宿は東京の大都市、新宿です。
新宿は甲州街道の宿場町。
江戸の宿場町が現代の都市の基礎になっているのです。

■飛脚は宅配便であり郵便であり送金手段

江戸時代は人の手と足で物資を運んでいました。
その人達のことを飛脚といいます。
佐川急便のマークが飛脚です。
飛脚は超優れたランナーで、江戸・京都間をリレー形式で片道4日で走破します。
普通の人の歩行速度では2週間かかります。
リレー形式とは、飛脚Aが荷物を宿場町Xまで運び、Xで待機していた飛脚Bに荷物を渡し、Bが宿場町Yまで運ぶという方式です。
宿場町は飛脚たちの拠点でもありました。
宿場町は現代の物流倉庫やトラック待機所と同じ役割を果たしていました。
日本発祥の陸上競技、駅伝のルーツは飛脚のリレー形式といわれています。
チームで協力して長距離を走り切るところが共通しています。
飛脚は重要文書もお金も運びました。
つまり飛脚は、現代の郵便局であり、銀行の送金システムでもあったわけです。
中央政府の幕府が運営する飛脚は継飛脚といい、いわば国営です。
地方政府の大名が運営する飛脚は町飛脚といい、いわば民間企業です。
江戸時代が終わって明治時代になると郵便制度ができ飛脚は荷物だけを運ぶようになりました。
飛脚たちは運送会社をつくりました。

■サムライロード 江戸を歩く旅

旧中山道の現代の観光地としての魅力を探っていきます。
旧中山道が通過する都府県は東京、埼玉、群馬、長野、岐阜、滋賀、京都です。
旧中山道は人気の観光地ですが、普通の観光地とは違います。
まず素朴です。
華やかな観光スポットはほとんどありません。
旧中山道は約500kmもあり、これほど長い観光地はとても珍しいです。
旧中山道を楽しむには歩いたほうがよいのですが、時速4kmで歩くと、休みなく歩いても125時間かかります。
500kmを歩くのに125時間かかると、1日8時間歩いても16日かかります。

これほどの日数をかけて楽しむ観光地も普通ではありません。
したがって旧中山道を味わうには、500kmのなかから良さそうな場所を選んで、そこをピンポイントで訪れたほうがよいのではないのでしょうか。
500kmを走破したい、という人もいるでしょう。
その場合は江戸の人達のように旧中山道沿いのホテルに泊まりながら進みます。

■サムライロード 観光地化されていないことが魅力

旧中山道は素朴でも観光地としての魅力があります。

歴史と文化と地域の人々の生活を感じることが喜びになり観光地の価値を生んでいます。

旧中山道を巡る旅の醍醐味は、江戸の歴史と文化を感じられることと、そこに住む人たちと触れ合えることです。

観光地化されていないところが旧中山道観光の魅力です。

有名観光地を歩き尽くした人が旧中山道を訪れると「これぞ日本」と思えます。

■サムライロード 特に紹介したい妻籠宿

旧中山道は500kmもあるので、近くの観光スポットや見所は数多くあります。

そのなかで真っ先に紹介したいのが妻籠宿です。

旧中山道の妻籠宿と馬籠宿を結ぶ9kmは特にヨーロッパの人に人気です。

妻籠宿は現在の長野県南木曾町、馬籠宿は現在の岐阜県中津川市です

日本人が関心を示さなかった場所が、外国人によって良さを発見されて観光地になる、ということによく起きます。

妻籠宿がまさにそれです。

妻籠宿はイギリスの国営放送BBCの旅番組で紹介され人気に。

日本人はそれまで、一部の人しかその価値に気づいていませんでした。

妻籠宿の魅力は、江戸時代の街並みの一部が400年以上経った今も残っていることです。

田舎だったので開発の波が届きませんでした。

地域の人達の努力も大きく、50年以上前に「売らない、貸さない、壊さない」という方針で美しい街を後世に残そうとしました。

妻籠宿は山に囲まれてキレイな川が流れる、日本の山里らしい場所としても魅力があります。

杉並木の下を歩くととても愉快です。

妻籠宿の人達が景観を保存しようと考えたのは、変えないものにこそ観光の価値が生まれると思ったからです。

「景観の保存=観光の価値」を50年以上前に気づき実践したことは画期的です。

現代のエコツーリズムに通じるものがあります。

妻籠宿と馬籠宿を結ぶ9kmの道は森のなかを通ります。

途中に馬籠峠があります。

峠とは、山道を登りつめて、そこから下りになる場所のこと。

山の上り下りの境目のことをいいます。

妻籠宿と馬籠宿を結ぶ9km全体が魅力的なのですが、実は妻籠宿~馬籠峠間のほうが、馬籠宿~馬籠峠間より評価が高い傾向にあります。

馬籠宿~馬籠峠間もそれなりに雰囲気がありますが、観光地として開発されてしまっている、という指摘があります。

つまり馬籠宿は「普通に良い感じ」の観光地で、開発されていない妻籠宿は「ものすごく良い感じ」の観光地といえるかもしれません。

妻籠宿は宿場町として初めて重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。

地域の人達の地道な取り組みが評価されたわけです。

文化庁は、歴史的に価値がある村や町並みを保存するため、重要伝統的建造物群保存地区を設定しています。

政府公認の観光地です。

重要伝統的建造物群保存地区に指定されると、防災設備や案内板の設置や修繕などに国の補助金が出て、税金面でも優遇されます。

妻籠宿に一石柵立場茶屋があり、江戸時代につくられた建物を使っています。
茶屋は江戸時代のカフェです。
一石柵立場茶屋のなかには日本の伝統的な火の設備である囲炉裏があります。
今は無料の休憩所になっています。

■サムライロード 観光スポットの紹介

ここからは旧中山道の起点である東京都中央区の日本橋から順に、旧中山道の観光スポットと見所を紹介していきます。

日本橋は日本の道路の起点である元標になっていて、旧中山道だけの起点ではありません。

例えば「東京まで50km」という道路でみかける青い看板は日本橋が起点になっています。

京都は東京の南西の方向にありますが、旧中山道は日本橋から北に向かいます。

最初に到着するのはやはり東京の宿、板橋です。

板橋には東京っぽい派手さはなく、石神井川の桜並木や前野原温泉などがあります。

板橋をすぎると旧中山道は埼玉県に入ります。

埼玉県の最初の宿は蕨市で、大荒田交通公園や和楽備神社など地元の人向け施設があります。

続いて埼玉の都市部である浦和や大宮に向かいます。

両者の距離は6km。

浦和には埼玉県立近代美術館が、大宮には鉄道博物館があります。

大宮の次は上尾です。

上尾丸山公園や、さいたま水上公園など地元の人向けの施設が多いです。

旧中山道の埼玉エリアの宿は上尾、桶川、鴻巣、熊谷、深谷と続き、本庄で終了。

途中で浅間山古墳や武田信玄ゆかりの陽雲寺があります。

群馬県の最初の宿は高崎市にある新町です。

神流川古戦場や歴史的建造物の明治天皇新町行在所があります。

群馬県内の宿にはその他に、倉賀野、高崎、板鼻、安中、松井田、坂本があります。

ところどころに古い建物が現れます。

旧中山道の群馬エリアを抜けると長野県軽井沢に到着します。

日本で最も有名な別荘地です。

軽井沢はオシャレな街で、別荘を持っていない人も楽しめます。

旧軽井沢銀座やプリンスショッピングプラザでは飲食と買い物ができます。

軽井沢以外の長野エリアの宿は、沓掛、追分、小田井、岩村田、塩名田、八幡、望月、芦田、長久保、和田、下諏訪、塩尻、洗馬、そして...

本山、贄川、奈良井、藪原、宮ノ越、福島、上松、須原、野尻、三留野、妻籠も長野エリアの宿です。

下諏訪には国内に1万ある諏訪神社の総本山、諏訪大社があります。

樹齢800年の杉をみることができます。

大木で坂道を下る御柱祭は大迫力です。

長野県を抜けると岐阜県に入ります。

岐阜エリアの宿は、馬籠、落合、中津川、大井、大湫、細久手、御嵩、伏見、太田、鶯沼、そして...

加納、河渡、美江寺、赤坂、垂井、関ヶ原、今須も岐阜エリアの宿です。

徳川家康が関ヶ原の合戦で石田三成に勝ったことで徳川幕府が生まれました。

関ヶ原古戦場記念館では歴史を詳しく知ることができます。

岐阜県の次は滋賀県です。

滋賀エリアの宿は柏原、醒井、番場、鳥居本、高宮、愛知川、武佐、守山、草津です。

栗東市の大宝神社と草津市の伊砂砂神社は国の重要文化財に指定されています。
温泉で有名な草津は群馬県にあり、滋賀県の草津には滋賀県立琵琶湖博物館があります。
草津からは中山道と東海道の共通のルートになります。
草津、大津までが滋賀県で、ゴールの三条大橋が京都府です。
三条大橋は徳川家康の前に天下を獲った豊臣秀吉が作りしました。
当時の京都の都市改造事業の一環としてつくられた橋です。

■サムライロード レンタカー＋徒歩がおすすめ

旧中山道を味わうには、やはり歩きたいところ。

しかし500kmを走破することは一般の観光客には難しいでしょう。

そこで旧中山道観光でおすすめしたいのがレンタカーでの移動です。

旧中山道はほとんどが国道または県道になっているからです。

レンタカーなら東京の店舗で借りて、京都の店舗に返却できることがあります。

帰りは新幹線で東京に戻れます。

レンタカーで古い町並みがある場所まで行き、そこで数時間歩く、という行程を繰り返してはいかがでしょうか。

500kmの旧中山道すべてに観光的な価値があるわけではなく、その区域はレンタカーで通りすぎてしまってもよいでしょう。

ただし旧中山道観光では、500kmすべてを通過することにチャレンジしたいところ。

レンタカーならそれが可能です。

良い観光地は旧中山道から少し離れた場所にもあります。

レンタカーならそこに行ってまた旧中山道に戻ってこられます。

「サムライロード」は、いかがでしたか？

あなたも是非日本を訪れ、サムライロードを歩いてみてくださいね。

今後の動画制作に活かしますので、感想を是非コメント欄から教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

